

平成23年度 個別施策管理シート

個別施策12

政策	3 夢のふくらむ港	施策推進 責任者	企画調整室長 港営部長
基本施策	04 うらおいと魅力のある港湾空間の形成		
個別施策	12 快適な港湾空間を形成する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	来港者、就業者					
	サービスの対象物(何を)	緑地、水辺空間、就業空間及び港湾景観					
	意図(どういった状態にしたいのか)	快適に感じられる場となる					
内容	これまで名古屋港では人々に親しまれる施設を各種整備してきましたが、さらに水辺に訪れる人々に安らぎや潤いを感じることができる緑地や遊歩道、都心部と港をつなぐ海上ネットワークの充実、景観資源を活かした魅力ある視点場の確保などによって、港らしさが感じられるより快適な空間を提供していきます。						
目標	臨港緑地利用者の満足度の向上を図ります。	目標達成に影響する外的要因等					
成果指標	年度 実績等	H19 H20 H21 H22 目標 H24	指標の説明(式)				
ガーデンふ頭臨港緑園・金城ふ頭中央緑地・潮見ふ頭緑地の満足度(エコ、けしき、こころ、レクリエーション、つかいやすさ)	実績 %	74 (17年度結果)				75	17年度に各緑地利用者、地域住民等に対しアンケートを実施(3緑地計242人)
	達成率 %	98.7					
港湾福利厚生施設利用者(福祉センター、岸壁休憩所)	実績 万人	125	117	99	104	140	
	達成率 %	89.3	83.6	70.7	74.3		

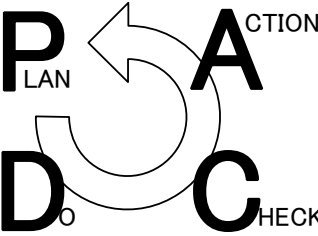
2. Do(個別施策を構成する各事務事業の取組内容と今後の方向性)

重点化	担当課	事務事業名(コード)	事務事業の概要	主な成果指標又は活動指標(単位)	成果・事業費(千円・人件費込)			目標値(年度)	H22年度事業に基づく評価結果(及びH23年度評価時点までの状況変化も反映)					
					H21	H22	H23		H22年度末までの状況※1	H23年度以降の取組の方向性			備考(判断の理由・目標年次の変更等)	
					実績		目標			事務事業※2	成果※3	コスト※4		
決算額	決算見込額	予算額												
○	(企画調整室) 計画担当	中川運河再開発計画の策定(港湾計画の策定)(3041201)	都心に近接したロケーションや周辺の開発動向を鑑み、利用形態の見直しを図り、水域の利活用に係る幅広い考え方や、必要となる施設などについて関係機関等と検討・調整を行います。	策定進捗率(累計)(%)	30	34	54	100(H25)	遅れ	継続	↗	➡	・物流の環境変化に対応した港湾のマスタープランである港湾計画の改訂に向けて着実に準備する必要があるため。 ・目標年度を23年度から25年度に変更しました。	
◎	(企画調整室) 事業担当	中川運河緑地(堀止地区)整備事業【本掲】(3041202)	地域環境の向上を図るため、ささしまライブ24と連携を図りながら中川運河(堀止地区)の緑地を整備します。規模:1.1ha【再掲】4051703	事業進捗率(累計)(%)	2.1	6.4	12.9	100(H25)	順調	継続	↗	➡	都心に位置する当緑地は多くの利用が見込め、ささしまライブ24の計画に合わせた事業進捗を図っていく必要があるため。	
	(企画調整室) 事業担当	金城ふ頭中央緑地整備の事業化(3041203)	国土交通省と予算に関する調整を行います。	事業採択(回)				1(H20)	完了					
	(港営部) 港営課	港湾福利厚生施設の管理(3041204)	港湾福利厚生施設となる港湾労働者福祉センター、岸壁休憩所は本組合が所有していますが、運営は(財)名古屋港湾福利厚生協会に委託しています。運営方法、施設の修繕、必要棟数等については、同協会及び関係者と調整し、快適な港湾労働環境の形成を図ります。	港湾福利厚生施設の利用者数(万人)	99	104	140	140	順調	継続	➡	➡	港湾労働者の良好な労働環境の確保は港湾管理者の責務であるため。	
	(企画調整室) 計画担当	名古屋港景観基本計画の見直し(3041205)	名古屋港景観基本計画を策定してから、約10年が経過したため、検討委員会を組織し、同計画の点検・検証を行います。	名古屋港景観基本計画第2版の策定(%)				100(H20)	完了					
	(企画調整室) 事業担当	金城ふ頭中央緑地整備事業【本掲】(3041210)	地域環境の向上を図るため、金城ふ頭中央緑地の整備を行います。規模:1.1ha【再掲】4051710	事業進捗率(累計)(%)	8.3	32.5	100	100(H23)	順調	完了				23年度にて事業完了見込みであるため。
	(企画調整室) 環境担当	名古屋港景観基本計画の推進(3041211)	関係行政機関や事業者と連携して、景観アドバイザー制度の活用などにより、各種建築計画等と名古屋港景観基本計画及び名古屋港カラー計画との整合性を図り、魅力ある港湾景観の形成を推進します。	景観基本計画との整合性(%)	100	100	100	100	順調	継続	➡	➡	カラー計画に基づく審査案件の実現に努力しつつ、コスト維持に努めていく。	
	(企画調整室) 環境担当	名古屋港跳上橋の保存・活用方法の検討(3041212)	名古屋港景観基本計画において歴史資源として位置づけられている、名古屋港跳上橋の保存・活用について検討するものです。	保存・活用方法作成工程の進捗率(累計)(%)	33	42	67	100(H24)	順調	継続	➡	➡	・港らしさの創出に向けて、貴重な景観資源である跳上橋の保存・活用方法の検討を進めることが必要であるため。 ・目標年度を22年度から24年度に変更しました。	
				施策コスト(事業費合計)	42,639	83,266	158,095							

注)事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。

注)目標値欄の「継続事業」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則としてH24年度の中間目標として設定しています。

4. ACTION(個別施策全体の今後の取組の方向性)

H23年度以降の取組の方向性	平成23年度取組の方向性の判断の理由(本組合財政収支への影響の考察を含む※5)		
取組の方向性	成果※3	コスト※4	<ul style="list-style-type: none"> 人々に親しまれる施設の整備など成果を拡大としますが、コストは厳しい財政状況を踏まえ、維持とします。
	↗	➡	
			
今後の展開方向(新規事業の創出、事務事業の見直し等)			
<ul style="list-style-type: none"> 港らしさが感じられる快適な港湾空間の形成に向けて、訪れる人々が満足できる、より良い施設整備を進めていきます。 社会情勢の変化や新たな県民・市民のニーズに応え、名古屋市とともに中川運河再開発基本計画の見直しに取り組み、その結果を港湾計画に反映させます。 中川運河再開発計画の港湾計画の策定に関しては、目標年次を新たに25年度に設定し、準備を進めていきます。 名古屋港跳上橋については、今後の維持管理を考慮して、適切な保存・活用方法を検討していきます。 中川運河緑地(堀止地区)の整備は、ささしまライブ24の計画と連携して取り組んでいきます。 港湾福利厚生施設の管理については、(財)名古屋港湾福利厚生協会と連携を図り、必要に応じて施設の運営の改善や改修等に取り組んでいきます。 			

3. CHECK(個別施策全体における取組状況と課題)

平成22年度行政評価のACTION(取組の方向性)を踏まえて取り組んだ内容と現状における課題認識	
<ul style="list-style-type: none"> 中川運河再開発計画の策定(港湾計画の策定)については、国の港湾行政の指針となる基本方針が策定されるなど作業環境が整ってきたため、順次対応していく必要があります。 中川運河及び金城ふ頭の緑地整備は、概ね順調に進んでいます。 名古屋港跳上橋は貴重な景観資源ですが、保存に際しては周辺環境との整合などに配慮する必要があります。 	
構成事務事業の適正性(事務事業の構成内容が妥当かどうか。問題がある場合は具体的な修正案を記入)	
<ul style="list-style-type: none"> 事務事業の構成内容は概ね適正です。 	